

余暇のひととき

文化協会より

俳句

△吉田俳句協会▽

叱られし涙のあとや昼寝の子
 臨月の娘の抱へ来る大西瓜
 海に出て海おどろかす梅雨出水
 この奥に昭和ありけり立葵
 絵手紙は初めて咲きしアマリリス
 明日なきと思ふ齡や寝香水
 梅雨明や用件だけの電話受く
 純友の昔や島の明易し
 守り継ぐ伊達の文化や菖蒲咲く
 乱雑にして籠台の大西日
 小夜更けて誰待つでなく河鹿橋
 和霊大祭田水ゆつくり翳りだす
 水中花ひとりふたりと世を辞して
 麦笛を吹けば昭和の子となりぬ
 波音を耳朶に遊ばせ凌霄花
 十字路で日傘の女と待ち合はす
 かなしみを逸らす扇の空使ひ
 海の日の蜚の眼差し沖にあり
 青田風はらみて父の遠見癖
 白南風や身ぬちを抜けしものあまた

宮内 溪水
 宮川 千穂
 中岡 きぬ
 丸内 松美
 朝倉 雅香
 清水 十藻子
 今城 夏枝
 河野 としを
 岡田 幸子
 長谷 みつる
 さくら 陽子
 福永 立青
 井上 論天
 水谷 はる実
 茅田 春恵
 村崎 都
 稲瀬 奈加枝
 辻 渚
 二宮 洋子
 加賀城 燕雀

川柳

△吉田川柳会▽

幸せが曲がり角でも消えぬよう
 虹の橋架ける話に耳を貸す

赤松 委沙子
 加賀山 一興

短歌

△つしま短歌会▽

何食わぬ顔で主流の飯を食う
 真似てから見付け出して自分流
 便が無い欲望と言う名の電車
 必勝へ神を信じて取る先手

金子 すすむ
 日野 厚生
 薬師寺 絹子
 米子 達雄

△川柳鹿の子吟社▽

過ぎ去った昭和の御代が懐かしい
 もう大人青春の門くぐり抜け
 日帰りツアー疲れを溜めるバスの旅
 子をあやすように老人あやされる
 毎日が旬と思うと面白い
 金持ちをドカッと儲けさす政治
 退職後の椅子が田んぼに置いてある
 親子でもゆとりが欲しい車間距離

上田 島都
 男武 志津江
 志摩 佳聲
 中村 地青
 西村 美保子
 益田 岩郷
 松本 志津子
 渡辺 勝弘

献立は鰹のたたきといふ幟風に音たつ店に入りぬ
 清家 幸子
 裸麦作らずなりて久しかりテレビに映る麦笛なつかし
 三浦 稔子
 登り来し丸亀城より望み見る高浜虚子の詠みし飯の山
 中村 美鈴
 庭先の石より出でし沢蟹は銚を上げて吾を威赫す
 西崎 美紀子
 両肩の荷こぶは削げて節々の痛みをだまし農護りゆく
 清家 源太郎
 夫の居ぬ書齋乱るる事もなく静まる部屋に花菖蒲活く
 常盤 市子